

### 3-6 美学・西洋美術史

#### 研究・教育活動の概要と特色

美学・西洋美術史研究は、人間の証とでもいうべき感性、創造性に依拠しています。「近代」においてはとくに芸術が、宗教や共同体幻想を代行するまでになっています。だとするとそれにはどのような意味があるのか、を問わなければなりません。その問を具体的な作品にアプローチすることで果たそうとしています。芸術作品が成り立つその前提を疑うという姿勢から、新たな価値観を見いだす作業を「美学」において学べるように努めています。本講座で学ぶ美学は、いわゆる伝統的な理論的美学ではなく、美術史研究を行っていく上での方法論を考える、価値判断の重要性を認識する手段となっています。

一方、美術史学は作品を歴史的コンテクストの中で調べ、現代的な批評の視点でその様式、図像、社会的位置を研究するように努めています。美術史においては、西洋美術全般にわたって様式的分析ばかりでなく、その「イコノロジー」的考察、社会史的分析を視野に入れて芸術家と作品との関係を考察することに主眼を置いています。それに加えこれまでマイノリティーの問題であった、東洋からの西洋美術への影響を取りあげ、その意義を明らかにしていきたい。

#### I 組織

##### 1 教員数（2015年5月20日現在）

教授：1

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：尾崎彰宏

准教授：芳賀京子、エンリコ・フォンガロ

助教：森田優子

##### 2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
25	0	4	3	0

### 3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	10	3	2
11	2	1	2
12	5	0	0
13	6	1	0
14	5	2	0
計	28	7	4

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	1	0	1
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
計	2	0	2

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

石澤靖典、2010年度、『サンドロ・ボッティチェッリ研究——都市イメージの形成と芸術家の役割——』

審査委員：教授・尾崎彰宏（主査）、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

小松健一郎、2011年度、『コレッジョと十六世紀初期ポー川中流域の芸術——「周縁」におけるマニエラ・モデルナの形成』

審査委員：教授・尾崎彰宏（主査）、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	0	2	1	0	3
11	1	2	1	0	4
12	1	1	0	0	2
13	1	1	0	0	2
14	0	2	0	0	2
15	0	0	0	0	0
計	3	8	2	0	13

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数（ポスター発表含む）

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	4	0	0	4
11	0	4	0	0	4
12	0	2	0	0	2
13	0	0	0	0	0
14	1	3	0	0	4
15	0	1	1	0	2
計	1	14	1	0	16

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

石澤靖典、「十五世紀フィレンツェにおける都市図の展開——フランチェスコ・ロッセッリの地図制作と都市の理念」、『都市を描く——東西文化にみる地図と景観図』（佐々木千佳・芳賀京子編）、東北大学出版会、31-97頁、2010年

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ（父）の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察——自然と身体運動の表現の変遷を中心に——」、『美術史学』、第31/32号、2010/2011年

絹川陽子、「ピサのカンポサントの《最後の審判と地獄》——教訓を垂れる審判図——」、『美術史』、第172冊、224-238頁、2012年

斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察——背景表現の変遷を中心に——」、『美術史学』、第 31/32 号、2010/2011 年  
鈴木幸野、「ピサネッロ作ブレンツォーニ家墓碑装飾をめぐる一考察」、『美術史学』、第 33 号、2012 年

## (2) 翻訳

小松健一郎訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011 年 3 月 12 日～）、朝日新聞社、2011 年、章解説と作品解説の翻訳

奥田亜希子訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011 年 3 月 12 日～）、朝日新聞社、2011 年、章解説と作品解説の翻訳

阿部愛訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011 年 3 月 12 日～）、朝日新聞社、2011 年、章解説と作品解説の翻訳

佐々木千佳訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』（国立西洋美術館ほか、2012 年 6 月 13 日～9 月 17 日）TBS、2012 年、作品解説執筆と翻訳

加藤奈保子訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』（国立西洋美術館ほか、2012 年 6 月 13 日～9 月 17 日）TBS、2012 年、作品解説の翻訳

伊藤麻衣訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』（国立西洋美術館ほか、2012 年 6 月 13 日～9 月 17 日）TBS、2012 年、作品解説の翻訳

## (3) 口頭発表・ポスター発表

【国際学会等】

Kyoko Yamada, “Depiction of Internal Passion by Rembrandt: His Stilled Manner and Asian Miniatures” ライデン、ローマ・仙台・ライデン 2014 年ワークショップ “Viewing the Body: Japanese and European approaches to concepts of the corporeal”、2014 年 3 月 24 日

Ryo Shinozaki, “Powerful Woman and Foolish Men: Jan Gossart(ca.1478-1532)'s Venus and Cupid (Brussels)”, 第 4 回日独 6 大学学長会議(HeKKSaGon)に

伴う学生ワークショップ、東北大学、2015年4月15日

【国内学会等】

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ（父）の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察——森からの離脱と感情表現の変化——」、第61回美学会全国大会、2010年10月9日

伊藤麻衣、「クラナハ（父）の《メランコリー》連作に関する一考察——1530年前後の「愛の教訓」との関連を中心に——」、第63回美学系全国大会、2012年10月8日

奥田亜希子、「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する一考察——画家の両面性を映す鏡としての「正面観」——」、第61回美学会全国大会、2010年10月9日

斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察——キリスト教・ユダヤ教的要素を手掛かりに——」、第61回美学会全国大会、2010年10月10日

佐々木千佳、「形と変容—15世紀ヴェネツィア美術家工房の聖母子画制作とその受容」、第62回美学会全国大会、2011年10月15日

篠崎亮、「ヤン・ホッサールの肖像画背景に描かれた大理石パネルをめぐる一考察」、第62回美学会全国大会、2011年10月16日

鈴木幸野、「ベルガモ郊外マルパーガ城内のフレスコ画連作について」、第2回美学会東部会例会、2010年9月25日

森田優子、「忠誠と礼讃—カルパッチョ作「スラヴ人会」絵画連作を例として—」、第62回美学会全国大会、2011年10月15日

山田今日子、「17世紀版画市場とレンブラント」、第62回美学会全国大会、2011年10月16日

山田今日子、「レンブラントとルーカス・ファン・レイデン——「エッケ・ホモ」を中心に——」、第63回美学会全国大会、2012年10月8日

山田今日子、「レンブラントの東洋へのまなざし」（ポスター発表）、立教大学、第64回日本西洋史学会、2014年5月31日

河西宏紀「ミケランジェロ作《バックス》についての一考察」、九州大学、第65回美学会全国大会、2014年10月12日

湯山彩子「ピーテル・サーンレダムの《聖バーフォ教会》をめぐる一考察

——座る母子のイメージと慈善事業の関係を中心に」、九州大学、第  
65回美学会全国大会、2014年10月12日

伊藤麻衣「ルーカス・クラナハ（父）の作品にみられるメランコリーの  
変容——1520年代以降の寓意画・教訓画における女性表象を中心に  
——」（ポスター発表）東洋大学、西洋中世学会第7回大会、2015年  
6月14日

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

山田今日子（DC）

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010年度

- ・博士課程後期1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）

2011年度

- ・博士課程後期1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）
- ・学部生（3年）1名 ウプサラ大学（スウェーデン）

2012年度

- ・博士課程後期1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）
- ・学部生（3年）1名 ウプサラ大学（スウェーデン）

2013年度

- ・博士課程後期2名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）、  
ゲッティンゲン大学（ドイツ）

2014年度

- ・博士課程後期1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）
- ・学部（3年）生2名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」（イタリア）、  
ストラスブール大学（フランス）

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	3	0	3
11	2	2	4
12	2	1	3
13	1	1	2
14	0	0	0
15	1	0	1
計	9	4	13

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	0	0	0

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人（2010～2015年度）

### 7-1 専攻分野出身の研究者

- 2010年度 加藤奈保子 東北大学文学研究科助教  
 奥田亜希子 北九州市立美術館（学芸員）  
 門田彩 メナード美術館（学芸員）  
 鈴木幸野 志賀高原ロマン美術館（学芸員）  
 谷口依子 戸栗美術館（学芸員）
- 2011年度 石澤靖典 山形大学人文学部准教授
- 2012年度 加藤奈保子 福島大学人間発達文化学類准教授  
 小松健一郎 北九州市立美術館（学芸員）  
 斉藤陽介 上原近代美術館（学芸員）
- 2013年度 佐々木千佳 秋田大学教育学部准教授  
 森田優子 東北大学文学研究科助教  
 工藤弘二 ポーラ箱根美術館（学芸員）

2014 年度 白幡菜穂子 山形美術館（学芸員）  
谷口依子 姫路市立美術館（学芸員）  
渡辺亜由美 滋賀県立美術館（学芸員）

#### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2010 年度 4 名（学芸員）  
2011 年度 0 名  
2012 年度 2 名（学芸員）  
2013 年度 1 名（学芸員）  
2014 年度 3 名（学芸員）

#### 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

#### 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

#### 10 刊行物

『美術史学』（年刊）

#### 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010 年度

6 月 3 日 西洋美術史特別講演会、ニコラス・リーヴス氏（メトロポリタン美術館特別研究員）「ツタンカーメンの黄金のマスクの謎」（大学院 GP 共催）

6 月 19、20 日 第 34 回地中海学会大会

2011 年度

10 月 15～17 日 第 62 回美学会全国大会

2012 年度

6 月 16 日 公開シンポジウム「地・人・芸術—〈芸術と地域〉を問う—」（於仙台市博物館ホール）

7 月 3 日 美学・西洋美術史特別講演会、奈良澤由美氏（東京大学）



総合文化研究科特任研究員) 「初期中世美術の成立と展開」

2014 年度

8 月 9 日 古代ギリシア美術史・考古学特別講演会、ミレーナ・メルフィ氏 (オックスフォード大学ニューカレッジ講師、アシュモレアン美術館学芸員) 「アスクレピオスとその神域——古代ギリシアの医神信仰の歴史を追う——」

3 月 18 日 美学・西洋美術史講演会、ベネデッタ・ベッシ氏 (ジョン・カボット大学助教授) 「クリストフォロ・ブオンデルモンティ『島々の書』とフィレンツェ人文主義の古代ギリシア再発見」 (空間史学研究会共催)

2015 年度

4 月 17 日 第 4 回日独 6 大学学長会議(HeKKSaGon)の人文系の国際ワークショップ

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

[土曜会 (読書会)]

2010 年度 第 28 回 (4 月 3 日)

2012 年度 第 29 回 (5 月 13 日)、第 30 回 (2 月 23 日)、第 31 回 (3 月 5 日)、第 32 回 (3 月 28 日)

2013 年度 第 33 回 (4 月 28 日)、第 34 回 (2 月 11 日)

2014 年度 第 35 回 (5 月 3 日)

[美学・映像研究会]

2012 年度 第 1 回 (6 月 15 日)、第 2 回 (7 月 27 日)

第 3 回 (8 月 3 日)、第 4 回 (10 月 23 日)

2013 年度 第 5 回 (7 月 5 日)

[卒論・修論構想発表会]

2010 年 7 月 12、13 日

2011 年 8 月 2 日

2012 年 7 月 13 日

2013 年 7 月 23 日

2014年7月29日

[研究会]

・2010年度

4月26日 伊藤麻衣「ヴィッテンベルク時代初期（1505-09年）におけるルーカス・クラナハ（父）——〈聖カタリナ祭壇画〉にみられる、ドイツの視覚的伝統の影響——」

5月7日 石澤靖典「ボッティチェッリの《サン・バルナバ祭壇画》——ダンテの銘文とアウグスティヌス派の聖母信仰をめぐって」

7月5日 絹川陽子「カンポサントの《最後の審判と地獄》におけるキリストと聖母」

7月12日 奥田亜希子「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する一考察——画家の両面性を映す鏡としての「正面観」——」

9月6日 研究経過報告会（鈴木幸野・伊藤麻衣・斉藤陽介）

9月22日 大学院生の研究構想報告会

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2004年度をもって一名の教員が定年により退職し、05年度は教授1名と助教1名体制になった。そのため学部・大学院を合計すると50人近い学生を抱える研究室としては、教育・研究のヴァリエーションの幅が小さくなったことは否めない。しかし、06年より助教授を迎え、教育的な専門領域が充実するようになった。さらに09年度からは、「美学」を専門とするイタリア人准教授が加わりスタッフの充実がはかられた。

教育活動としては、留学や研究生活を継続してきた大学院生の課程博士論文の授与数がこの5年間で4名となった。今後とも博士論文が質量とも充実していくことが望まれる。

その理由はいくつか考えられる。一つは、全国学会で発表後、最初の論文を作成するところまでは、ある程度順調にいくが、そのあと、留学の準備やそして留学によって、実際に論文を作成するよりも、作品を見てまわり、文献を調べたり調査したりする充電期間が予想以上に長くかかっていることがあげられる。

もう一つは、昨今の学生の場合、ロールモデルの存在が非常に大きい。博士

論文提出者の理想的なロールモデルとなる学生が現在まで研究室にあらわれていない。その理由としては、論文を書くと言うことの意味づけが今ひとつ諒解されていないのではないか。本研究室でも、博士課程に進学した学生大半が、それぞれの専門領域におうじて海外の研究機関へ留学をしている。留学前後と比較すると、当該学生の語学力には格段の進歩がみられることは確かだ。作品の調査能力の進化にも一日の長が見うけられる。しかし、人文学にとって不可欠ともいえる、問題意識——なぜこの問題に取り組むのか、という必然性が深化しているとは言い難い。これがやはり、帰国後、留学と研究成果の発表とに直接的な結びつきがやや欠ける理由ではないか。

こうした研究・教育上の問題点は早くから意識されており、専攻分野主催の研究会などの活動をできるかぎり積極的に行ってきた。授業や演習とは別に、院生をレポーターとして、美術史という分野の視点に立って美術史関連分野の書物を読んでその問題点と課題を発表し参加者で議論する研究会を定期的で開催している。そうすることで、ややもすると自分の専門領域の狭い範囲に閉じこもりがちな院生の問題意識を活性化させる努力をしている。

さらには、学部生、院生を交えた作品の調査・研修旅行を毎年企画し、作品への接し方や問題意識など日常を脱したところで自由に語り合うことも行っている。しかし、成果という点からすると、なお充分とは言い難い。研究指導において、学生のモチベーションをさらに高めていくことが、今後の院生指導の課題である。

最後に学生の就職にふれておきたい。学部卒業生の就職状況は、公務員、一般企業など、業種はまちまちであるが、それぞれ積極的に活動しおおむね良好である。院生の場合も、博士課程の前期修了者の場合、とくに専門領域にこだわらない形で就職を希望するものは、出版、マスコミなどそれぞれの希望に合わせて就職している。美術館、大学教員など専門職を希望する院生は、博士課程後期に進学しているが、状況は10年前とくらべると一段と厳しくなった。このあたりの学生支援をどのように進めていくかが課題である。

### Ⅲ 教員の研究活動（2010年度～2015年5月20日）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

Enrico Fongaro, “Il tempo e il nulla: il pensiero di Carlo Michelstaedter nel

dialogo interculturale”, *Studi Italici*, 59, 2009, pp.53-70.

2010 年度

尾崎彰宏「アルベルト・エックハウトの「静物画」——オランダ植民地総督ヨーハン・マウリッツの「ユートピア」の表象——」『東北大学文学研究科年報』59号、2010年、pp.37-65.

尾崎彰宏「フェルメール絵画の平面性——そのエロティシズムに見る聖と俗——」、栗原・矢萩・辻本編『空間と形に感応する身体』東北大学出版会、2010年、pp.199-221.

Kyoko Sengoku-Haga, Masanori Aoyagi, “Due statue marmoree da Somma Vesuviana: Dioniso e la Pepliphoros,” *Amoenitas* 1 (2010), pp. 237-252.

Kyoko Sengoku-Haga, “Le Pepliphoroi della Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale”, A. De Rosa ed., *Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro* (Atti del Convegno internazionale, Facoltà di Agraria dell’Università degli Studi di Napoli “Federico II”, Reggia di Portici, 21 e 22 maggio 2010), Napoli 2010, pp. 93-100.

芳賀京子「古代ギリシア・ローマの横たわる裸婦」『ヴィーナス・メタモルフォーシス——「ウルビーノのヴィーナス展」講演録』所収、三元社、2010年、pp.13-68.

芳賀京子「古代ローマにおけるギリシア人彫刻工房の研究」、平成19年～21年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書、2010年、76pp.

芳賀京子「美術にみる古代ギリシア人の生と死」『生と死への問い』（人文社会科学講演シリーズV）所収、東北大学出版会、2011年3月、pp.1-52.

芳賀京子「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》（二）——非ギリシア人の知覚する美と神性——」『美術史学』、31/32号、2010/2011年3月、pp.55-78.

芳賀京子「感性の美術～前4世紀以降のギリシャ美術～」、展覧会カタログ『大英博物館 古代ギリシャ展』（神戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日ほか）、朝日新聞社、2011年3月、pp.198-203.

2011 年度

尾崎彰宏「静物画としての自画像、あるいは自画像としての静物画」、栗原隆編『共感と感応——人間学の新たな地平』東北大学出版会、2011年、pp.217-244.

芳賀京子「古代彫刻への新旧のアプローチ」『遺跡学研究』8号、2011年、pp.160-163.

芳賀京子、青柳正規「《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》——ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の二体の大理石像」『美術史学』33号、2012年3月、pp. 91-108（上掲イタリア語論文の日本語訳）

2012 年度

尾崎彰宏「「画家・版画家」レンブラントの芸術的な挑戦」Rembrandt: The Quest for Chiaroscuro, 国立西洋美術館、2012年、pp.31-42.

Akihiro Ozaki, The Artistic Challenges of Rembrandt as Painter-Printmaker, Rembrandt: The Quest for Chiaroscuro, Tokyo, 2012, pp.107-117. (上記論文英訳)

尾崎彰宏「描かれた中国磁器——静物画に見るオランダという表象」栗原隆編『世界の感覚と生の気分』ナカニシヤ出版、2012年、pp.86-102.

芳賀京子「豊饒の角を持つヘラクレス」『美術史学』34号、2013年3月、pp. 61-78.

Enrico Fongaro, “The Giotto’s O – Some considerations about the reception of the Italian translation of *Zen No Kenkyū*”, 『西田哲学会年報』第9号、2012年、pp. 186-174.

森田優子「カルパッチョ作「スラヴ人会」絵画連作の主題選択」『美術史学』35号、2013年3月、pp. 79-96.

2013 年度

尾崎彰宏「17世紀オランダ美術に描かれた女性たちをめぐって」東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『男と女の文化史』東北大学出版会、2013年、pp. 163-207.

Akihiro Ozaki, Painted Images of Chinese Porcelain -Symbols of Holland as Seen in Still-Life Paintings, *Art History*, 34 (2013), Dep. of Art History,

Tohoku Univ., pp.1-12.

Akihiro Ozaki, L'impatto dell'Oriente: L'enigma della sfida di Van Gogh a Rembrandt, *Art History*, 34 (2013), Dep. of Art History, Tohoku Univ., pp. 1-19.

Y. Zhang, M. Lu, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga and K. Ikeuchi, "Classical Sculpture Analysis via Shape Comparison", *International Conference on Culture and Computing 2013*, Kyoto 2013, pp. 57-61.

M. Lu, Y. Zhang, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga, and K. Ikeuchi, "Portrait Sculpture of Augustus: Categorization via Local Shape Comparison", *Digital Heritage International Congress 2013*, Marseille 2013, pp. 661-664.

芳賀京子「アゴラクリトス作《ラムヌスのネメシス》——台座浮彫の解釈と神像の意味」『西洋古典学研究』62、2014年3月、pp. 1-12.

Enrico Fongaro, "Nulla e tempo; L'esperienza dell'Ora Eterno in Uno studio sul bene di Nishida Kitarō", 『美術史学』35号、2014年3月、pp.29-43.

2014年度

尾崎彰宏「レンブラントのスペクタクル——「受難」連作に「情念」の絵画化の射程」『西洋美術研究』19号（2014）pp. 137-151.

Akihiro Ozaki, The Internal Body Revealed: Rembrandt's "Who was a Godless Painter", *Art History*, 36 (2015), Dep. of Art History, Tohoku Univ., pp. 1-7.

○ I. Kader, K. Sengoku-Haga, Ch. Anthes, K. Ikeuchi, "Archäologische Seh Schule 2.0", *Akademie Aktuell*, 02-2015, 2015年3月, pp. 72-77.

森田優子「ヴェネツィアの祝祭と都市イメージ」、『西洋美術研究』第18号、2014年12月。

2015年度

Kyoko Sengoku-Haga, "Japan's impassionate gaze on Greek art", S. Settis, A. Anguissola, D. Gasparotto (eds.), *Serial, Portable Classic*, Milano, 2015年5月, pp. 193-197.

Kyoko Sengoku-Haga, Y. Zhang, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi,  
“Polykleitos’ Works ‘From One Model’: New Evidence Obtained From 3D  
Digital Shape Comparisons,” András Patay-Horváth ed., *New Approaches to  
the Temple of Zeus at Olympia*, Cambridge 2015 (刊行予定)

## 1-2 著書・編著

- 座小田豊・尾崎彰宏編『今を生きる』東北大学出版会、2012年  
尾崎彰宏『ゴッホが挑んだ「魂の描き方」——レンブラントを超えて』  
小学館 2013年  
尾崎彰宏・幸福輝・廣川暁生・深谷訓子『カーレル・ファン・マンデル「北  
方絵画列伝注解」』中央公論美術出版 2014年  
尾崎彰宏（監修）『フェルメールと「風俗画」の巨匠たち』小学館 2015  
年  
芳賀京子（監修）『大英博物館 古代ギリシャ展』（展覧会カタログ、神  
戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日 他）、朝日新聞社、2011  
年3月  
芳賀京子（監修）『ギリシア・ローマ』（ペンプックス）、阪急コミュニ  
ケーションズ、2014年7月  
Enrico Fongaro, Alfonso Cariolato (eds), Carlo Michelstaedter, *Parmenide ed  
Eraclito Empedocle*, SE, Milano 2011  
Enrico Fongaro, Marcello Ghilardi (eds.), Fongaro Enrico (tr.), Nishida Kitarō,  
*Luogo*, Mimesis, Milano 2012  
Enrico Fongaro (eds.), Fongaro Enrico (tr.), Nishida Kitarō, *Problemi  
fondamentali della filosofia*, Marsilio, Venezia (刊行予定)

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

### (1) 翻訳

- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）  
（12）」（共訳）、『美術史学』31/32号、2010/11年、pp. 127-152.  
尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）  
（13）」（共訳）、『美術史学』33号、2012年、pp. 125-137.  
Enrico Fongaro, Alfonso Cariolato (tr.), Martin Heidegger, *Platon, Sophistes*,

Adelphi, Milano 2013.

## (2) 書評

尾崎彰宏「私的世界が輝いていた時代」（中村俊春編『絵画と私的世界の表象』京都大学学術出版会、2012年）『図書新聞』（3057号）2012年4月7日

尾崎彰宏「「静物」の味覚と個人の誕生の物語」（上村清雄編著『味覚のイコノグラフィア』ありな書房 2012年）『図書新聞』（3092号）2013年1月1日

尾崎彰宏「絵画としての版画、版画としての絵画：北方美術に見る「風景」の独自性」（幸福輝責任編集『版画の写像学』ありな書房、2013年）『図書新聞』（3146号）2014年2月15日

芳賀京子「水田徹著『パルテノン・フリーズ 観察と考察』」『地中海学研究』35、2012年、pp. 193-197

## (3) 解説

尾崎彰宏「62 フェルメール《真珠の耳飾りの少女》」「63 レンブラント《ミネルヴァ》」「64 レンブラント派《黄金の兜の男》」作品解説『ベルリン美術館展』国立西洋美術館他、2012年

尾崎彰宏「オランダ絵画のパラドックス——レンブラントとフェルメール」『ベルリン美術館展』国立西洋美術館、2012年、pp.178-179.

芳賀京子「エトルリア美術」「マグナ・グラエキア美術」「古代ローマの建築」『イタリア文化辞典』、丸善出版、2012年

芳賀京子（監修、執筆）「ヨーロッパ美の起源 古代ギリシャ・ローマ特集」雑誌『Pen』、2012年12月15日、pp. 28-119.

芳賀京子「西洋古代における死とその表象」『東北文化研究室紀要』54、別冊、2013年、pp. 96-98.

芳賀京子「古代ギリシャ・ローマ美術の遺産 ①～⑥」、河北新報「科学の泉」、2013年12月17日～22日

Fongaro, Enrico, “Nishida Kitarō”, “Tanabe Hajime”, “Nishitani Keiji”, in Franco Volpi, *Dizionario delle opera filosofiche*, Milano 2013 (刊行予定)



## 1-4 口頭発表

### (1) 国際学会・シンポジウム・講演

2010 年度

Kyoko Sengoku-Haga, “Le Peplophoroi della Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale”, 国際シンポジウム Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro, ナポリ大学フェデリコ2世、エルコラーノ（イタリア）、2010年5月21日（招待発表）

Enrico Fongaro, “Esperienza della modernità nel pensiero di Nishida Kitaro”, シンポジウム “Immagini della modernità”, 伊日研究学会、ナポリ東洋大学、2010年9月15日（招待講演）

Enrico Fongaro, “Modernità e interculturalità in riferimento al pensiero di Nishida Kitaro”, ワークショップ Modernità e filosofia interculturale, パドヴァ大学、2010年9月17日（招待講演）

2011 年度

Enrico Fongaro, “Nishidas Philosophie der Zeit”, 国際シンポジウム Nishida Kitarō in der Philosophie des 20. Jahrhunderts, Internationale Tagung (20世紀の哲学における西田幾多郎) ドイツ・ヒルデスハイム大学、2011年9月5-9日（招待講演）

2012 年度

Akihiro Ozaki, Painted Images of Chinese Porcelain, Leiden University - Sapienza University - Tohoku University Trilateral workshop project (2013-2015) “Keywords for mutual appreciation of different cultures” ローマ大学（ラ・サピエンツァ）、2013年3月18日

Akihiro Ozaki, RCA International Seminar, The Eastern Impact. The Enigma of Van Gogh’s challenge to Rembrandt, ローマ第2大学、2013年3月19日（招待講演）

Kyoko Sengoku-Haga, “3D Analysis of Classical Sculpture”, Internationaler Museumstag am Leibniz-Rechenzentrum, ライプニッツ・スーパーコンピュータ・センター、ミュンヘン（ドイツ）、2013年5月12日

Enrico Fongaro, “The aspatial gaze – Nishida and Simmel about the problem of the Form ”, 国際シンポジウム Japan and East Asia as seen from Europe, Europe as seen from Japan and East Asia、イタリア・ローマ大学、2013年3月18日（招待講演）

Enrico Fongaro “Interculturalità e pensiero interculturale”, ルガーノ大学神学部講演会, 2013年3月27日, ルガーノ大学（スイス）（招待講演）

2013年度

Akihiro Ozaki, The Internal Body Revealed: Rembrandt “Who was a Godless Painter”（第2回東北大学・ローマ大学・レイデン大学学術シンポジウム）、レイデン大学（オランダ）、2014年3月24日

Yujin Zhang, Min Lu, Bo Zheng, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi Oishi, Kyoko Sengoku-Haga and Katsushi Ikeuchi, “Classical Sculpture Analysis via Shape Comparison”, 国際会議 Culture and Computing 2013, 立命館大学（京都）、2013年9月16～18日

Min Lu, Yujin Zhang, Bo Zheng, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi Oishi, Kyoko Sengoku-Haga, and Katsushi Ikeuchi, “Portrait Sculpture of Augustus: Categorization via Local Shape Comparison”, 国際学術大会 Digital Heritage 2013, マルセイユ（フランス）、2013年10月28日～11月1日

M. Lu, Y. Zhang, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga, K. Ikeuchi, “Categorization of Portrait Sculptures of Augustus via Local Shape Comparison”, The 8th International Workshop on Robust Computer Vision, 2014年1月12日、デジョン（韓国）

Enrico Fongaro, “Leibliche Übungsformen auf japanischen Kunstwegen: Nō-Theater und Iaidō”, Sommerakademie der Universität Hildesheim（ヒルデスハイム大学サマースクール・ワークショップ招待講師）, 2013年7月15日-18日, 於：ヒルデスハイム大学（ドイツ）

Enrico Fongaro “Bodily Experience of an Eternal Now: The fundamental role of the body in the philosophy of Nishida Kitarō (and its relation to some Japanese traditional arts)”, ローマ-仙台-ライデン 2014 ワークショップ “Viewing the Body: Japanese and European approaches to concepts of the

corporeal”, 2014年3月24日, ライデン大学 (招待講演)

#### 2014年度

Kyoko Sengoku-Haga, Yujin Zhang, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi Oishi, and Katsushi Ikeuchi, “Kopienkritik of Classical Sculpture via 3D Digital Form Comparisons: The Case of Polykleitos”, 国際学会 Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 2014、パリ第1大学 (パリ)、2014年4月24日

Kyoko Sengoku-Haga, “Polykleitos’ Works ‘From One Model’: New Evidence Obtained From the 3D Digital Form Comparisons,” 国際シンポジウム New Approaches to the Temple of Zeus at Olympia. Architecture, Sculpture, History and Recent Technologies、エトヴェシュ・ロラード大学 (ブダペスト)、2014年5月8日～10日

Kyoko Sengoku-Haga, “Signature in the Shape: 3D Shape Analysis of Ancient Greek Sculptures” 国際学会 The 12<sup>th</sup> Asian Conference on Computer Vision、3rd ACCV Workshop on e-Heritage (招待講演)、シンガポール大学 (シンガポール)、2014年11月1日～2日

芳賀京子「ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の大理石彫刻 (2014年) : 《ウエヌス・プディカ》」(Una scultura marmorea rinvenuta a Somma Vesuviana nel 2014: Venus Pudica)、研究発表会『火山噴火罹災地の文化・自然環境復元』—ソンマ・ヴェスヴィアーナ 学融合研究 2013/2014—、東京大学、2015年2月21日

Kyoko Sengoku-Haga, “The Doryphoros Herm by Apollonios and the so-called Dancers of Herculaneum: Use of *Plastice* in Sculptors Workshop”, 国際コロキウム OUT OF SCALE! Aesthetic, Technical, and Art Historical Perspectives on Ancient Bronze Statuary (招待発表)、ピサ高等師範学校、パラッツォ・ストロツィ (フィレンツェ)、2015年3月21日

#### 2015年度

Akihiro Ozaki, Rembrandt and Islam: : Sympathies and Transformations, The 4th German-Japanese University Presidents' Conference: Workshop Group III: Social Sciences and Cultural Translation. The Transformation and Creation fo

cultural values and social frameworks, 東北大学、2015年4月15日

## (2) 国内学会・研究会・講演

2010 年度

尾崎彰宏「自画像としての静物画／静物画としての自画像」美術史学会東支部大会、損保ジャパン東郷青児美術館、2010年10月23日

芳賀京子「古代ギリシア・ローマ世界の生動化するイメージ」、ミニシンポジウム「礼拝像の生動性をめぐって」、東京大学、2010年5月16日

2011 年度

Enrico Fongaro, “The Giotto’s “o” – some considerations about the reception of the Italian translation of *Zen no kenkyū*” 「ジョットーの「オ」（円形）—『善の研究』イタリア語訳の受容についての考察—」西田哲学会、第9回年次大会、石川県西田幾多郎記念館、2011年7月16日

森田優子、「忠誠と礼讃—カルパッチョ作「スラヴ人会」絵画連作を例として—」、第62回美学会全国大会、2011年10月15日

2013 年度

芳賀京子「アゴラクリトス作《ラムヌスのネメシス》」、日本西洋古典学会大会、東京大学、2013年6月1日

芳賀京子「神像を見る／神像が見守る——古代アテナイの場合——」、空間史学研究会、東北大学、2013年8月1日

芳賀京子「サイバー考古学による古代彫像の解析」、東北大学情報科学研究科桑原研／電気通信研究所北村研／文学研究科芳賀研／東京大学生産技術研究所池内・大石研 合同シンポジウム、東北大学、2014年1月22日

Enrico Fongaro 「Δι' ἐνεργείας ἐς ἀργίαν [活動を通じて静寂へ] —イタリアにおけるショーペンハウアーの受容の一側面—カルロ・ミケルシュテッターの思想」、日本ショーペンハウアー協会第26回全国大会、2013年11月1日、於：立正大学（招待講演）

2014 年度

尾崎彰宏「カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」について」2014年9月28日、新潟大学人文学部駅南キャンパス「ときめきと」  
芳賀京子、「サイバー考古学による古代彫像の解析～彫刻工房と *plastiche*」、  
人と移動体のセンシング・コミュニケーション技術に関する研究会、  
東北大学 電気通信研究所、2015年3月11日

## 2 教員の受賞歴（2010年度～2015年5月20日）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

### （1）科学研究費補助金

（平成20年）～22年度

尾崎彰宏（研究分担者）「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」 課題番号：20320003  
基盤研究（B）

平成21年度～24年度

尾崎彰宏（研究代表者）「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究（B）課題番号：21320026

平成23年～26年度

尾崎彰宏（研究分担者）「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制的の解明、並びにその発現様式についての研究」基盤研究(A) 課題番号：23242002

平成24年～

尾崎彰宏（研究分担者）「17世紀オランダ美術の東洋表象研究」基盤研究（A）課題番号：24242008

平成25年～

尾崎彰宏（研究代表者）「静物」に関する脱領域的研究—ネーデルラント美術を中心に」基盤研究（C）

平成25年度 科学研究費研究成果公開促進費（学術図書）

尾崎彰宏（研究代表者）『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解』課題番号：255021

平成 26 年～

尾崎彰宏（分担研究）「西洋近世・近代における市場・流通・画商の地  
政経済史的研究」課題番号：26244009

（平成 20 年度）～22 年度

芳賀京子（連携代表者）「像（イメージ）の生動化についての比較美術  
史的研究」基盤研究（B）課題番号：20320022

（平成 21 年度）～24 年度

芳賀京子（研究分担者）「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列  
伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究（B）課題番号：  
21320026

平成 23 年度～26 年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ローマの彫刻コピー工房の研究——3 次  
元デジタルデータの取得と応用」基盤研究(B) 課題番号：23320040  
15,080,000 円（総額）

平成 23 年度～26 年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ギリシアの礼拝像の研究——「古き像」  
と「新しき像」の神性」挑戦的萌芽研究 課題番号：23652018  
2,500,000 円（総額）

平成 23 年度～25 年度

芳賀京子（連携研究者）「美術と宝物の相関性についての比較美術史学  
的研究」基盤研究（B）課題番号：23320030

平成 26 年度～

芳賀京子（連携研究者）「宮廷と美術に関する比較美術史学的研究」基盤  
研究（B）課題番号：26284023

平成 27 年度～

芳賀京子（研究分担者）「古代地中海世界における知の伝達の諸形態」基  
盤研究（A）課題番号：15H01888

平成 25 年度～27 年度

Enrico Fongaro（研究代表者）「現在の平面」—西田幾多郎における時間  
論と存在論」基盤研究（C）課題番号：25370004 3,900,000 円（3 年間）

総額)

平成 22 年 1 月～平成 24 年 3 月

森田優子（研究代表者）「一五、一六世紀ヴェネツィア美術に見られる異国表現」（研究活動スタート支援）課題番号：22820002 1820,000 円（2 年間総額）

## （２）その他

（平成 20）～22 年度

芳賀京子（事業分担者） 文部科学省・大学院教育改革支援プログラム（大学院 G P）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻

平成 26 年度

芳賀京子 東北大学男女共同参画・女性研究者支援事業、研究スキルアップ経費

## V 教員による社会貢献（2010 年度～2015 年 5 月 20 日）

尾崎彰宏「美術の楽しみと学び」磐城高等学校、2010 年 10 月 22 日

尾崎彰宏「レンブラントとそのライバル——ルーベンスを中心にして」、ブリヂストン美術館（土曜講座）、2011 年 4 月 2 日

尾崎彰宏「レンブラント 夢の傑作 10 選」NHK 日曜美術館、2011 年 4 月 26 / 5 月 1 日

尾崎彰宏「手紙が語るフェルメールの真実」NHK 日曜美術館、2011 年 7 月 24 / 31 日

尾崎彰宏「西洋美術にあらわれた〈男〉と〈女〉」有備館講座、2011 年 9 月 17 日

尾崎彰宏「光と神秘の画家 フェルメールからのラブレター展（上）／ブルーの輝き表情豊かな色彩再現」（上）（インタビュー記事）『河北新報』、2011 年 11 月 1 日

尾崎彰宏「光と神秘の画家 フェルメールからのラブレター展（下）／風俗画の流行多様な市民生活描く」（下）（インタビュー記事）『河北新報社』、2011 年 11 月 3 日

- 尾崎彰宏「フェルメール作品来日ラッシュ」（インタビュー記事）『日本経済新聞』2012年1月10日
- 尾崎彰宏「レンブラント・フェルメールの時代の女性たち」品川区民大学教養講座、2012年6月8日
- 尾崎彰宏「フェルメール熱風」（TEMPO）『週刊新潮』2012年6月28日号
- 尾崎彰宏「オランダ絵画のパラドックスーレンブラントとフェルメールを中心に」国立西洋美術館特別講演会、2012年7月14日
- 尾崎彰宏「メトロポリタン美術館「フェルメール “女” 見つめる謎」」NHK BS、2012年9月5/11日（出演）
- 尾崎彰宏「フェルメールへの旅——ベルリン美術館展」西日本新聞（インタビュー記事）2012年
- 尾崎彰宏「明日への提言（上）」『東北大学新聞』4月号
- 尾崎彰宏「明日への提言（下）」『東北大学新聞』5月号
- 尾崎彰宏「東からのインパクト」有備館講座 2013年6月15日
- 尾崎彰宏「芸術にあらわれた東洋」沼津東高校 2013年10月19日
- 尾崎彰宏「オバマが一役買ったレンブラント「夜警」の集客力」（インタビュー記事）『週刊新潮』2014年4月10日号
- 尾崎彰宏「「天文学者」フェルメール：古い天球儀を見る訳は」（「美の履歴書 400」）「朝日新聞」（インタビュー記事）2015年4月15日夕刊
- 尾崎彰宏「風俗画の魅力——レンブラントとフェルメールの時代」国立新美術館特別講演会、2015年4月12日
- 尾崎彰宏「日本テレビ+ルーヴル美術館 特別番組 日テレプッシュ：ルーヴル美術館展 フェルメールの暗号を解く！」（出演）2015年5月8日
- 芳賀京子「ラオコーンの彫刻家たち」、斎里蔵の講座、2010年6月5日
- 芳賀京子「美しきヒトのカラダ～ギリシア美術の裸体～」、リベラルアーツサロン、2011年6月11日
- 芳賀京子（出演）「日曜美術館 おしゃべりなカラダたち～ギリシャ彫刻の楽しみ方」、2011年7月17/24日、NHK 教育



芳賀京子「ギリシャ彫刻の見方～古代の人々のまなざし」、国立西洋美術館特別講演会、2011年9月3日

芳賀京子「古代ローマの皇帝権力と美術」、仙台日伊協会第133回例会「イタリア文化の夕べ」、2012年9月14日

芳賀京子「西洋古代における死とその表象」、東北文化研究会公開講演会「表象としての身体——死の分化の諸相」、2012年11月24～25日

芳賀京子「ギリシャ彫刻と3D —最新技術で古代美術の真実を探る—」、萩友会関東交流会 講演会、2013年7月15日

芳賀京子（インタビュー記事）「アルテミス、通称『ギャビーのディアナ』」朝日新聞「美の履歴書318」、2013年8月21日

芳賀京子「フェイディアスとアテネ」、ブリヂストン美術館 土曜講座、2013年10月26日

芳賀京子「異文化の受容と変容 ～古代ローマ人とギリシア文化～」第7期 斎里蔵の講座「文化理解（解釈）のキーワード」、2014年7月5日

芳賀京子「古くて新しいギリシア・ローマ ～美術史あるいは考古学～」仙台第一高等学校、2014年9月13日

芳賀京子「古代ローマの風呂文化」、知求アカデミー地中海学会講座、2014年11月21日

Enrico Fongaro「イタリアの芸術と言語」、第12期 有備館講座「文化理解（解釈）のキーワード」、岩出山スコーレハウス、2013年9月21日

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

尾崎彰宏

美術史学会委員（2009年）～2014年5月

美学会委員 2004年10月から現在に至る。

仙台市博物館協議会委員 2010年から現在に至る。

国立西洋美術館・美術作品購入等選考委員会選考委員 2013年度

芳賀京子

京都ギリシア・ローマ美術館評議員 2006年7月から現在に至る

地中海学会大会準備委員 2010年。

美学会幹事 2007年から現在に至る。

美術史学会 委嘱委員 2013 年、常任委員 2014 年～

Enrico Fongaro

西田哲学会理事 2012 年～現在に至る

## **VII 教員の教育活動**

### **(1) 学内授業担当 (2015 年度)**

#### **1 大学院授業担当**

教授 尾崎彰宏

前期 美学・西洋美術史特論

通年 美学・西洋美術史研究演習

通年 美学・西洋美術史研究実習

通年 美学・西洋美術史課題研究

准教授 芳賀京子

後期 美学・西洋美術史特論

通年 美学・西洋美術史研究演習

通年 美学・西洋美術史研究実習

通年 美学・西洋美術史課題研究

後期 人文社会科学研究

准教授 フォンガロ、エンリコ

通年 イタリア語 (初級)

通年 イタリア語 (中級)

通年 イタリア語 (上級)

通年 美学・西洋美術史研究演習

助教 森田優子

通年 美学・西洋美術史研究演習

通年 美学・西洋美術史研究実習

#### **2 学部授業担当**

教授 尾崎彰宏

前期 美学・西洋美術史各論

前期 美学・西洋美術史基礎講読

後期 美学・西洋美術史概論

通年 美学・西洋美術史実習

通年 美学・西洋美術史演習

後期 文学部・基礎講読

准教授 芳賀京子

前期 美学・西洋美術史概論

後期 美学・西洋美術史各論

後期 美学・西洋美術史基礎講読

通年 美学・西洋美術史実習

通年 美学・西洋美術史演習

准教授 フォンガロ、エンリコ

通年 イタリア語（初級）

通年 イタリア語（中級）

通年 イタリア語（上級）

通年 美学・西洋美術史概論

助教 森田優子

通年 美学・西洋美術史演習

### 3 共通科目・全学科目授業担当

准教授 フォンガロ、エンリコ

通年 イタリア語（初級）

#### (2) 他大学への出講（2010～2015年度）

教授 尾崎彰宏

2010年度 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科（集中）

岩手大学人文社会学部（集中）、放送大学宮城学習センター  
一面接授業（集中）

2011年度 名古屋大学文学研究科・文学部（集中）

2012年度 岩手大学人文社会学部（集中）

2013年度 放送大学宮城学習センター一面接授業（集中）

岩手大学人文社会学部（集中）

2014年度 東北学院大学文学部（前期）

准教授 芳賀京子

2012年度 放送大学宮城学習センター面接授業（集中）

2014年度 山形大学人文学部特殊講義

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科（集中）

准教授 Enrico Fongaro

2012年度 神戸大学国際文化学部（集中）

助教 森田優子

2011年度～現在 東北学院大学「美術、芸術論」（非常勤）

2011年9月～2015年3月 宮城学院大学「イタリア語 BI、BII」（非常勤）

2015年4月～現在 宮城学院大学「イタリア語リテラシーI、II」（非常勤）